



時事雜感

白洋漁夫

政黨果して無力か

滿洲建國以來我邦ではフアツシヨ氣分が濃厚となつて新興の空氣は新らしきよりは寧ろ古き所に着意することが一般的傾向であると看取せらる。夫れで五、一五事件や血盟團事件に依つて政黨の惡弊が強くハツキリと被告及辯護人の陳述辯論で國民の腦裡に印象つ

けられたことは顯著なる事實である。

さらでだに國民——政黨に無關心な國民には十數年間種々の事件例へば選舉とか土木事業とか拓殖事件とか學校問題とか其他の利權問題に依つて、かなり不快な感を與へられて居る、事の大、感の厚薄は異なつても政友會と云はず民政黨と云はず既成政黨に關する限り除外せらるゝものでない、國民同

盟に於ても夫れが新らしき團結であつても其關係者が既往にあつての政治行動乃至策動に依つて我は其責を負はずと言ふことは許されない。故に軍部の一局に於て笛を吹けば反政黨の氣風は燎原の火の如き勢を呈するは當然の結果である。三百の代議士を包容し我政界に於て第一黨を以て任する政友會が人氣男松岡洋右氏の「國家興亡の岐路に立つ今日の重大時機において云々」の一聲明書に依つてビク／＼せられ、百七十名の智者謀者策士を網羅する民政黨が無爲無能に終始するが如き状態に在るは蓋し自然的趨勢なりと言はざるを得ないであらう。人は言ふ金の問題と人の素質とが兩黨をして政黨無力時代を現出せしめたものだ。吾等は

そは一部の理由であつて實は他に大なる理由が存するものと思ふのである、吾人一度明治維新の直後に於ける大久保、木戸、西郷、大隈、板垣、伊藤、山縣、西園寺、星、後藤(象二郎)等諸公に就て見るに其處に如何なる勇氣と熱意と至誠と犠牲的精神とがあつたか、此等の諸公の胸中には確信に對する操守と實行とがあつたのである、藩閥者は藩閥者、官僚派は官僚派、野黨人は野黨人で各守る處があつて苟合妥協は夢想だもしなかつた、金石相觸れて火を發する底の衝突があつても更らに恐るゝ處がなかつたと見られる。彼等には國民を指導して興國の途を辿らしむべき責任と自覺があつた。時代に變遷があり、世相に推移があつても眞

人の行動は他を化する力がある。我邦政黨の由來を繹ぬる時に思ひ半に過ぐるものがあるであらう。政黨果して無力なるや否や國防第一

主義の昭和九年度の歳計豫算の内閣決定の審議事情を見るに後藤農相の主張する所に一應の理はあるも國民として眞個に非常時局に善處する國民たるの自覺を喚起せしむるの力ありや否、一概に將來百年の企圖劃策と云ふを得るであらうか。又内務當局の土木事業費の要求の理由は三年實行の誓約と既往二年度間の精算と産業開發の設備完成等に存するのであるが軍部の主張するが如く他の事業を抑制し其要求の國防費額を投下するにあらざらば我國は近き將來に至つて最大憂慮を禁ずる能は

ざる底の事實と確信とが存在するであらうか。海軍大臣が部下の統制上豫算復活を強要すると陸軍大臣は忽ち千萬圓の巨額を讓與する旨を申出たと報ぜらる、果して然るか、抑も國家は今や所謂非常時局に遭遇して居る、財政は赤字状態が存續して居る、故に各省の豫算割當額は必須的であつて其處には餘裕のあるべき筈がないのに陸軍大臣の雅量を示し男を上げたことは叙上の如きものがある、各省豫算には大藏大臣の裁量を持たずして他に讓與するの餘裕あるものと、疑はるゝも言ひ逃るべき途なかるべきか。斯る事實を暴露せられた吾等は國家の歳計豫算は分取主義で編成せらるゝにあらすやとの疑問を生ぜざるを得ない感がす

る。農村の窮窮極度に達したりと認識しながら此の如き喜劇を演ずるは果して如何の感想を國民に懐かしむるであらうか、國民をして歳計豫算の編成は

各省長官たる大臣にあらで國務大臣が確明な資料と必須的理由とに基いて決定せらるるものであるとの信頼を有せしむべきものである。財政の基準たる豫算編成の顛末夫れ如何ものがある、然らば之を是正し我國の政治をして正しきに向はしめ財政をして安に赴かしめ、底力ある國民を以て這次の國難に善處せしむるは來るべき帝國議會の一大重任である、貴衆兩院の議員の最大義務である、二大政黨の歩むべき途である、政黨力の有無が議會に於ての政黨員の何動如何に依て決定せら

るものである政黨果して無力なるか否や。

飛躍の苦惱を奈何せんか

昨八年を回想するに沖々たる憂心を深からしめた年であつた、即ち外は國際聯盟の脱退に因つて漸く孤立の地に置かれ經濟に政治に不利に導かれんとする趨勢を呈し、而かも滿洲國建設に關する重荷の加ふるものがあり尙且日英日印關係の如き貿易上の不安を醸成したる事件があつた、特に軍事關係になつては暗々裡に各國互に相競はんとする傾向を示すに至つた、内、經濟の變態は歸趣する所知り難く思想尙混亂して左傾に依り脅威を與へられ右傾に依り衝動を加へられ一部國民の焦燥心

理に依つて暴舉が行はれて或は議會政治の基礎に對する疑惑となり或は政黨解消の主張となり此等事情の錯綜は、更らに五・一五事件の如き戰慄すべきの不祥事件を續出したのである、所謂内憂外患で國難來の感を察する能はざるものがあつた。

茲に歲改まつて新光を迎へたるも國情は依然として舊と異ならず、而かも九年度國庫豫算案の決定に臨んでは帝國の環境は軍力を充實して平和持續の確保力を把握せねばならぬのみでなく萬一の場合に於ての國防の十全を圖らねばならぬ程切迫したる事情を告ぐることとなつて、國防に重心を置きて豫算を編成せねばならぬこととなつた、従つて内政費に對しては異常の削減

を加へざるを得ざる結果を見るに至つた、國民生活は未だ安定を視ず否寧農漁山村の如き極度の窘窮を告ぐるの境涯に在るを思ふとき誠に寒心に堪へざるものがあると言ふを待たない所である、其産業に文教に交通に其他各方面に涉つて一段の施設經營を要し之が爲國費に求むる所あるは明白なる事實であるも累年の赤字財政は復如何とも證方なからしむるの情態である、又實に財政上に在つても受難の時代なりと謂はざるを得ない。

惟ふに斯く受難の時代を呈したる我帝國は本年を以て千苦も之を忍び萬難も克く之に耐へて更生飛躍すべきの準備を爲さねばならぬ第一年である、然り而して國內に在つて諸種の事情即ち

社會の内部構成に於て矛盾衝突反蹶常道を逸し吾人の意圖外に出づるもの少からざるは之れ實に更生飛躍せんとして其整調を得んが爲の内部的動搖とも見らるゝものがあるが兎にも角にも國としての更生飛躍の苦惱國民としての更生飛躍の苦惱である、此苦惱を打開して始めて其處に飛躍せる日本の雄々しき姿を見出し得るのである、堅忍不拔溙勵努力して輝しき希望の裡に此一年を経過すること之れこそは我日本建國の精神に則つた國民の覺悟に外ならないと信ずる。立てよ同胞國運の前途は國民全體の覺悟如何に依つて運命づけらるゝものである、獨り爲政者や政治家や企業家や軍人達に一任すべきものでない。我等國民の双肩に來るもの

は我等國民の力に俟たねばならぬ飛躍の苦惱解消の一路は、國民共同の覺悟にある。

片手をあぐれば

ゴートなる

ドイツのヒットラー首相は、公官吏は總て片手をあげて敬禮を爲すべしと駭命した之をドイツ式敬禮法と名づけられ、絶對的嚴命であると云ふのである、處が十字路に立つ交通巡査が此敬禮法には惱まされる夫れは交通巡査が上官の通行を見れば直に片手をあげて國家的敬禮を施す、すると忽にしてストツプの信號はゴートになつたと待ち構へておる自轉車自動車電車はすさまじき勢で殺到することである。思はざる處に思はざる事が生ずるものである。